

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	メディアリテラシー		
英文授業科目名	Media Literacy		
開講年度	2009年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義・演習	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	児玉 幸子、山崎 晶子		
居室	西6-411 (児玉)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
ayamazaki@media.teu.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
われわれが囲まれているメディア環境（マスメディア、パーソナルメディア）を、社会やジェンダーとの関連から問い直す。検証した様々な議論を、学生も自分自身でデータを集め、実際にコンテンツを制作することによって検証し、その結果をレポートと制作した課題として提出する。学生自身は検証を通じて、メディアリテラシーを学ぶ。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
教科書は特に指定しない。参考書は、随時、授業のなかで提示する。

【授業内容とその進め方】

授業は、前半を講義形式、中盤でワークショップ、後半の2回を学生の発表、講義、ディスカッションで構成する。

第1回 メディアとは何か

マクルーハンらのメディアに関する議論の紹介、メディアリテラシー概念の紹介

第2回 映像とメディア ハイパーリチュアリゼーション

Erving Goffmanが提唱し、上野千鶴子が『セクシーギャルの大研究』で展開した広告におけるジェンダーの「本物よりも本物らしさ」ハイパーリチュアリゼーションに関して、CMクリップを参照しながら検証する。

第3回 ホームドラマの時代

メディアはどのように社会のあこがれとなり、社会的状況とリンクしながら、社会規範を創出するか、そして社会的状況にどのように遅れをとっていかかを、ホームドラマを例にとりて考察する。学生はデータを自身でとり、どちらかの議論を検証するためにレポートを提出する。

第4回 デジタル環境とメディアアブログ

アブログに関するComputer Supported Collaborative Workでの議論を紹介する。

第5回 コンピュータとメディア

コンピュータを用いたバーチャルな空間における人と人の相互行為、また相互行為が成り立たない場合に関して、様々な実験場面のビデオを通じて紹介する。

第6回 サイバーリテラシーと情報倫理

パーソナルメディアにおけるメディアリテラシーと概念の拡張について考察する。ディスカッション、講義前半レポートの提示。

第7～12回 メディアリテラシー ワークショップ

PCルームに移動し、デジカメ・ケータイで撮った写真と音声、文字情報を組み合わせてデジタルコンテンツを作成する。現代のメディアを使いこなして情報を発信するための基礎を身に付けると同時に、パーソナルメディアとマスメディアの融合、相乗効果、問題点について議論する。グループごとに分かれて、課題を制作する。

第13回 課題の発表、グループディスカッション

第14回 まとめ

個人と個人の関係、組織と社会、社会全体の動向、国際政治などへのメディアの影響について理解し、メディアリテラシー向上のために成すべきことをまとめる。

## 電気通信大学 平成21年度シラバス

### 【授業時間外の学習（予習・復習等）】

実習では西6号館3階のPCルームを利用します。授業時間以外にもPCルームは大学の規則の範囲内で利用可能です。PCルームとソフトウェアの利用の仕方は授業中に指導します。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席度30%、中間のレポート30%、最終課題40%の総合点にて成績を評価します。

### 【オフィスアワー：授業相談】

オフィスアワーは特に設けないので、e-mailにて連絡のこと。

### 【学生へのメッセージ】

テレビ、新聞、雑誌などのマスメディアをただ鵜呑みにするのではなく、誰がどのような意図で情報を発信しているか意識的に見るのが大切です。新聞と、インターネットでの情報の伝わり方の違いにも着目して日常を過ごすようにしてください。

### 【その他】

テレビ、新聞、雑誌などのマスメディアをただ鵜呑みにするのではなく、誰がどのような意図で情報を発信しているか意識的に見るのが大切です。新聞と、インターネットでの情報の伝わり方の違いにも着目して日常を過ごすようにしてください。